



からから vol.2 表紙写真紹介

〈宇宙大地・秋彩〉11月上旬 午前7時 山梨県 水ヶ森林道

今、私は絶壁の岩山に立っている。朝陽は円を描く様に山の中腹で光陰の世界を創る。夜が明けた。樹々のいのちが立ち上がった。山梨県の北部に位置し秩父山塊の中に在る乙女高原。絶壁は100mはある。完全な垂直だ。一帯では熊も出る。独り、全ては自分に帰す。絶壁の下の枯木は強烈な朝陽を受けて、燃える赤に命を吹き返して最後の輝きを見せてくれた。無限宇宙。歓喜界とはこれか。

富士山が教えてくれた幸運の法則

無理がたたって

先日、不覚にも大きな衝突事故を起こした。幸い人身事故にはならなかったが、双方の車はかなりのダメージとなった。原因の大半は私にある。そしてようやく気が付いた。

そう言えばここ数ヶ月、いつもの月の倍以上走り回っていた。各方面から仕事の依頼や、各お店への顔出し、様々な会合、原稿書き、夜中から夜明けにかけての富士山撮影、片道100km以上を何度も。その他諸々の事案に対し、とにかく全身全霊で応えようと、頑張り続ける事態が数ヶ月間集中した。

気が力だけだったと思う。緊張を持続している間は大丈夫だ!と理解していたが、その緊張がある時にほぐれた。それは寝不足による判断力の低下。そして緩慢な事実確認となって目の前に起きた。

その時になってようやく自分の不覚さを恥じた。事故を起こしてから反省では遅すぎる。今まで全方位に目と心を配っているつもりだったが、そうではなかった。休んでいなかった。毎日元気だと過信して無理をし過ぎた事が、積みり積みもって目の前で破裂した。

全て我が事

今夏、台風が荒れた。梅雨は有ったのか無かったのか分からない内に、8号と12号の台風と豪雨が代わる代わる襲来して、更に酷暑が追い打ちをかけ西日本を中心に未曾有の被害となった。

今回の天災は一部を除き、今まで台風で大きな被害を受けていなかった地域と人を直撃した。被害のあった地域の人々にとってはまさに想定外、予想だにできなかった辛く厳しい事態が自分の身に起きた。

東日本大震災は東北から遠く離れた地域の人たちにとっては、自分の身に起きてはいない為、いかに大きな被害であっても実感が乏しいと言う意見を聞いた事がある。

今度は西日本一帯を狙い撃ちした為、未経験の地域に同じ様な災害が起きた事になる。目の前で肉親や家や車が土砂に埋まり流された。被災は他人事ではなく我が事になった。

神様はこの様にして人々に気づきを与えるのだろうか。世界中で人知を超えた異常気象による大変動が起きている。遠く離れた国の事であっても無関心では済まされない状況の中に私達はいる。気付くと気付くと繰り返し言われている様だ。

元と言えば科学技術の進歩、戦争、大規模収獲システム、大量消費/廃棄、生態系の破壊、土壌汚染、森林破壊、あくなき快適生活の追求など、限度を超えた人間の欲望と営みに対し、地球自然が元に戻そうと胎動しているだけ。

だが人間は目の前の事に精一杯で、悠久の時の長さで自然と共生する事や、地球を再生してゆく意識は極めて低い。ごく一部の人たちを除いて。政府も経済界も近視眼的な施策を重視する状況は変わらない。

だから予想を超えた天災や異常気象はこれからも起き続ける。それも規模がより一層拡大して。穏やかだった美しき日本の暮らしは、縮小する事はあっても元に戻る事はないだろう。

心はいつも

予想外の天災が襲う事が避けられないとすれば、人為的な対処にも限界がある。対処していてもそれを一



蹴するような自然の猛威が起き得る。

ではどう言う心構えで生きていけば良いのだろうか。いつもその事を考えている。被害者に支援の手を差し伸べる事は極めて大事。だがそれだけで良いのだろうか。

現実には一つの災害に対し永久に支援を続ける事は出来ない。被害者の自立心もある。最終的には個人の意識をどこに置くかだと思う。

被災して亡くなった方はお気の毒であり無念であろう。反面残された方は全てを失い途方にくれるが、途切れなく毎日がやってくる。生き抜かねばならない。こんなに苦しみならいっそと思うかもしれないが、それは違う。

生きて残された事に意味がある。絶望の極みに立ったとしても生きていかなければならない。生きる支えは希望を持つ事。あなたなら目の前の事を乗り越えていけると受け止めるまでには、長い時間がかかると思う。

でも顔を上げて前を見て、明るい気持ちで対処しなければ先に進めない。被災を免れた立場の人たちにとっては、人々がそうやって立ち上がって下さる事を知るのが何より嬉しい。

心に希望を持つ事、光を灯す事。例えば家族の笑顔、家を建て直した、夜明けの太陽、日差しの中ですくんと立っている姿……明るい姿をイメージするだけで前に進める。言葉も明るくなれる。

私は富士山を通じて人々に元気エネルギーを届ける事を天職にした。ありがたい事に富士山を撮るといいう仕事をしていると、気づきや学びを無尽蔵に受け取る様になった。

富士山見るとほっとします。やるべき事もいっぱい、

富士山が無言で教えてくれたメッセージ

- よく寝て休んで、ゆとりを持って。
- 休まなければ質が落ちる。
- 災害は他人事ではない。自分の事と受け止める。
- 残された事に天意がある。前に進もう。
- 希望は人生の光。いつも前向き。いい言葉。
- 日本には富士山がある。富士山がついてるよ。

辛い事も多いけれど、その事だけに意識を向けてたら中々思う様に好転しない。ただど一人じゃない、みんな繋がってる、お陰様、やった分だけ前に進んだ、もう少しだ、明日はこれをやろう…。

人間は自然の中の一部。希望を持って、光を信じて、視点を変えて、出来る事を精一杯やって、あとは天に任せるしかないね。富士山と朝陽を心に描くだけでも明るく前向きになれる。いつも心は日本晴。



写真・文 /
ロッキー田中
(Rocky Tanaka)
ときめきの富士の写真家

27年間のサラリーマン生活に別れを告げ、生涯に99作の[ときめきの富士]を世に出す事に夢を託す唯一の写真家。富士山から呼ばれる写真家でもある。ときめきの富士は現在までに96作が完成し、多くの人の元で輝いている。人々との喜びの共感を生きがいとし、品川区のサロンと山麓のアトリエには訪れる人が絶えない。洞爺湖サミット、世界遺産登録にも貢献した。HPはロッキー田中、又はときめきの富士で検索出来る。

ときめきの富士ロッキーアートサロン

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-7-9平澤三陽ビル1F
TEL: 03-5740-6921 FAX: 03-5740-6922
営業時間: 11時~18時 (日曜・祝日休み)
tokimeki@rocky-fuji.com
<http://www.rocky-fuji.com/>